

この虎口は本丸への登城ルートのうち、城南側からの2ルートが集約される防御上極めて重要な場所となっています。検出された箕輪城の城門の中では最大規模(幅5.73m、奥行3.48m)を誇り、箕輪城を象徴する城門の一つであったと想定されます。

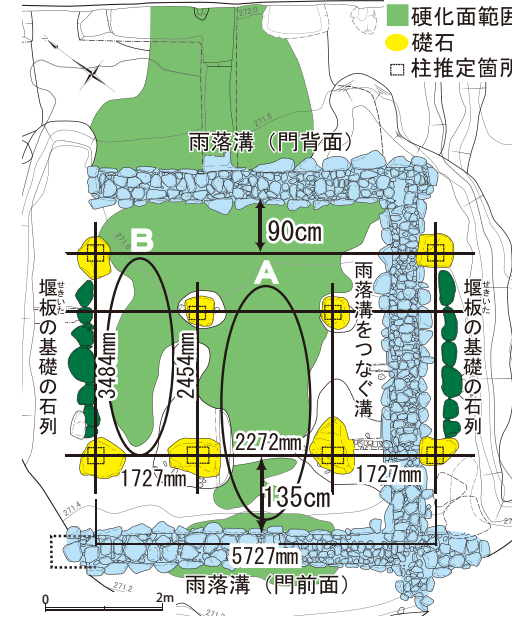


- 礎石の配置から、1階建てになることが多い4本柱や6本柱の門ではなく、2階建ての櫓門であると推定されました。
- 門の前面と背面で、雨落溝から礎石までの距離が違っています。
前面が45cm長いことから、2階部分が張り出す形になり、「石落とし」のあることが推定されました。
- 硬く踏み締められていた箇所(右図A)が、主な通行口で、大扉が取り付けられていたと推測されました。また、右図Bの箇所も硬化しており、脇戸の位置が明らかになりました。
- 瓦の出土がなく屋根は板葺と推定されました。



発掘調査時の郭馬出西虎口門(写真)

伝統的工法で復元を行うため、多くの工程がありました
(2014年6月～2016年6月)



発掘調査時の郭馬出西虎口門(図面)



検出された遺構を砂で保護する。



うちかぶ き はり
内冠木や2階の梁に用いられたマツ材
ちょうな
は手斧で仕上げる。



礎石上面の形状に合うように、柱を何度
も加工する(光付)。



慎重に柱を立て、組み上げる。



竹を格子状に組んで縄で固定した木舞
の上に荒壁を塗りこむ。



屋根は、手割りしたスギ板で葺き上げる。